

## **令和7年度第1回京都市市民参加推進フォーラム会議 摘録**

### **【開催日時】**

令和7年7月10日（木）午前10時～午後0時

### **【開催場所】**

京都市役所分庁舎4階 第4会議室

### **【議 題】**

- (1) 市民参加推進計画について
- (2) 令和7年度の市民参加推進フォーラムの取組の報告

### **【報告事項】**

- (1) 京都奏和高校における裾野拡大の取組
- (2) 市民参加に関する主な新しい事業
- (3) 新たに設置された附属機関等

### **【出席者】**

11名

（乾座長、白水副座長、並木副座長、荒木委員、今里委員、岡田委員、竹田委員、西澤委員、平井委員、松井委員、水本委員）

※白水副座長はオンライン参加

### **【議事内容】**

#### **1 開 会**

（並川文化市民局長あいさつ）

#### **2 副座長指名**

令和6年度末で退任した村田副座長の後任について、京都市市民参加推進条例施行規則第9条第2項に基づき、乾座長が並木委員を指名。

並木委員が承諾し、副座長に就任。

#### **3 議 題**

##### **(1) 市民参加推進計画について**

##### **ア 次期市民参加推進計画策定に当たっての諮問及び議論の流れ**

<事務局>

（諮問書の読上げ）

（資料3に基づき説明）

<乾座長>

説明のとおり「市民参加推進計画」と「地域コミュニティ活性化ビジョン」は関連しており、これらと「区基本計画」を統合させたより大きな計画として次期計画を策定していくことについて、京都市から諮問があった。意見等があればお願いしたい。

（意見等無し）

## イ 令和7年度実施の市民アンケートの結果報告及び第3期市民参加推進計画の評価の確定 ＜事務局＞

(資料4・5に基づき説明)

### ＜乾座長＞

今回、市民アンケートに新規設問を加え「まちづくり活動への参加の有無」と「つながりを感じる人・団体の有無」の関係性を分析した。その結果、まちづくり活動に参加したことがある人は、家族・友人や団体とのつながりを感じている傾向があり、逆に活動に参加していない人は、つながりを感じていない傾向がみられた。つまり、活動に参加していない人ほど、個人主義的または孤立的である可能性があると考えられる。

また、まちづくり活動に参加したことがない人のうち約40%が市民しんぶんを読んでいるという結果であり、紙媒体の特徴である情報を取りにいかなくても情報が得られることも大事だと感じた。

計画の評価については、計画の策定段階でその方法まで設計していなかったため、評価しにくいところがある。本日は、「評価保留 (□)」となっている施策について、市民アンケートの結果もふまえて、再確認したい。

### ＜竹田委員＞

昨年度のフォーラムでは、行政が実施した取組を踏まえて評価を行った。その際に、評価できなかった施策が「評価保留 (□)」になっていると理解している。それら进行评估するにあたっては、状態目標等が明確になっている必要があるが、それと市民アンケートの結果を照らし合わせて評価を行うと考えればよいか。

### ＜事務局＞

現行計画策定時には、全体の成果指標は設定しているが、施策ごとには定めていなかったため、施策の評価が難しい状況にある。

このため、前回フォーラム会議において、「評価保留 (□)」となった施策は、アンケート結果から再度評価することになったと認識している。ただし、アンケート結果をもつても「評価保留 (□)」のままという施策もあるとは考えている。

### ＜乾座長＞

現行計画の評価について、評価が難しいところは「評価保留 (□)」とすることも可能であるが、事務局の説明にもあったように、これまでの議論を踏まえ、アンケートの結果から評価可能な項目については、「できている (○)」か「できていない部分がある (△)」で評価していくのがよいだろう。

また、次期計画の策定時は、どのように評価するかという観点も入れて議論を進めたい。ただ、大きなビジョンを作るという方向性も考えられるため、これまでの計画とは、構成が変わるところも出てくる。

### 【施策1：市民による情報発信】

「知人や友人から誘われたから」「SNS等の発信を行う」などの回答が増えていて、市民による情報発信はされていると言えるので、「できている (○)」でいいのではないか。

(異論なし)

**【施策3、13：民間のまちづくりプラットフォームとの連携】**

前回結果と比較してほぼ横ばいである。「できていない部分がある（△）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策4：継続的な参加による政策形成の機会】**

アンケート結果では、パブコメなどと比較しても同程度の参加があるので、「できている（○）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策5：心理的負担感がある方にも参加しやすい工夫】**

アンケート結果では、若い世代の参加の機会の充実などに関する結果が良くなっており、負担感は下がっていると考えられるので、「できている（○）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策9：人とのつながりによる参加の促進】**

市民参加している人はつながりを感じている傾向にあり、口コミからの参加も増えているので「できている（○）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策12：まちづくり活動しやすい社会環境づくり】**

クラウドファンディングなどの活動が少し増えているが、ほぼ横ばいである。昨年度のフォーラム会議では、もっと環境づくりをしていくべきだという意見もあったので、「できていない部分がある（△）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策13：持続可能な協働の仕組みづくり】**

NPOや民間企業とつながりを感じている人は多くなく、もっと取り組む必要があるので、「できていない部分がある（△）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策1：発信した情報の対象への到達】**

市政参加の各取組を「知らない」と回答した人が増えているので、「できていない部分がある（△）」でいいのではないか。（異論なし）

**【施策8：協働分野の拡大と解決に向けた挑戦】**

参加者数を増やすのはなかなか難しいが、学生を中心に参加した人が増えている。「できている（○）」でいいのではないか。（異論なし）

現計画についてはこのような評価としたうえ、次期計画の検討に活かしていきたい。

**ウ 次期計画（目指す姿及び重視する視点）に係る議論（グループディスカッション）**

<事務局>

（「京都基本構想（仮称）」（案）及び資料6に基づき説明）

<並木副座長>

次期計画の計画期間は、グループディスカッションを行う上で、どのくらいの未来を考え

ればよいのか。

#### <事務局>

計画期間は10年間で、5年での見直しを予定しているの、5～10年後を想定してほしい。

(委員を2グループに分けて、グループディスカッションを実施)

#### <グループディスカッションの発表：Aグループ>

(乾座長、荒木委員、今里委員、岡田委員、水本委員)

「②まちづくりポテンシャル市民」から「①まちづくりハブ市民」への遷移、「③居場所探し市民」や「④潜在的ぼっち市民」から「①まちづくりハブ市民」への遷移など、各ペルソナがどのように変化していくのかについて議論し、遷移のきっかけとして、「おせっかい」に注目した。自身がフォーラムの市民公募委員に応募したきっかけも知人に誘われたからであり、まちづくり活動においても、地域の人に誘われるなどの参加するきっかけづくりが重要ではないかと考えた。

最近個人主義が強い傾向にあり、「おせっかい」にネガティブなイメージを持っている方も多く、ポジティブなものとして認識してもらう必要がある。特に若い人は、「おせっかい」というと、必要以上に関わられるというイメージを持っている。そうではなく、楽しくてシェアしたいから誘っていると思ってもらえることが重要ではないか。「①まちづくりハブ市民」はつながりを有する人たちであり、他の人を積極的に誘えると良い。

#### <グループディスカッションの発表：Bグループ>

(白水副座長、並木副座長、竹田委員、西澤委員、平井委員、松井委員)

グループ内には企業の方や若者向けの活動をしている方など様々な属性の委員がいたので、それぞれの経験を活かして、4つのペルソナについて考えた。まず、学生や若い層について、アクティブな人は「①まちづくりハブ市民」になるし、ゼミなどで強制的にまちづくりに関わっている「③居場所探し市民」もいる。また、卒業後も京都に関わりたい人もいる一方で、京都に住んでいるけれどもつながりが作れていない「④潜在的ぼっち市民」の人もいる。

自治会・町内会について、メインで活動している人は「①まちづくりハブ市民」だが、参加していても活動に積極的でない人もいる。PTAは、子どもが卒業したら活動が終わってしまう。また、こういった既存の地域団体の枠にとらわれずに活動したい人もいる。

企業の方は、働いている場所と住んでいる場所が違う場合、会社では活動しているけれども、住んでいる場所では活動が難しい場合もある。そして、「居場所」と「出番」に関して、その人が置かれた状況により、知恵を出せる、お金を出せる、遠隔地から関わるなど、関わり方にバリエーションがあるのではないかと考えた。

「④潜在的ぼっち市民」の人は、対面では関わりたくないが、スマホでの活動なら関わられるかもしれない。こういった多様な関わり方を許容できると良い。

## (2) 令和7年度の市民参加推進フォーラムの取組の報告

<事務局>

(資料7に基づき説明)

<乾座長>

計画に関しては、目指す姿の議論と行ったり来たりしながら、施策の検討も進めていきたい。

## 3 報告事項

(1) 京都奏和高校における裾野拡大の取組

(2) 市民参加に関する主な新しい事業

(3) 新たに設置された附属機関等

※ 資料の共有のみとすることとして、説明は省略

## 4 閉会

<事務局>

8月以降毎月の開催を予定しているので、別途開催日の調整をさせていただきたい。

以上